

**漢方薬と医師の関わりについて****吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也**

病院で漢方薬を処方されたことはあるでしょうか？実は医師が漢方薬を処方する頻度には大きな個人差があります。つまり漢方薬を全く処方しない医師もいれば、好んで使用する医師もいます。この差はどこから来るのでしょうか？

それは医学部教育の中で、漢方や東洋医学について学ぶ機会が非常に少ないことに原因があると考えられます。現在でも漢方・東洋医学の講義・実習は全部で10数時間程度であり、私が学生の頃はもっと少なかったと思います。つまり漢方薬治療は、医師が主に自力で学習していく分野になり、個人毎に習得や熟練度に差が生じてきます。

そもそも医療は日進月歩ですから、医師は医学部を卒業した後でも、最新の検査・治療といった医学的知見のアップデート、生涯研鑽が必要です。医師にもそれぞれ専門分野があり、当然習得していく内容も異なります。診療する科によって、漢方治療が深く関わる分野とそうでもない分野があるかと思えます。

また現在の医療は主にエビデンス（根拠に基づく医療）やガイドライン（診療指針）に基づいて診療が行われていますが、漢方治療については、近代医療や西洋薬に比べてこのようなデータが乏しいため、漢方治療に懐疑的・消極的な医師もいます。

このような背景があり、漢方治療を積極的に取り入れるかどうかは、医師毎に大きな差があります。漢方薬は長い歴史に裏付けられた実績があり、私自身も日々の診療の中で、漢方薬を処方することがあります。西洋薬では改善が乏しかった症状に対して、漢方薬が奏功することもしばしば経験しますが、病気の種類・症状によっては、漢方薬では効果が期待できない場合もあります。近代医療の中では、西洋薬を治療の中心とし、漢方薬はその足りない部分を補う、補完的治療として有効に活用することが望ましいと考えています。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000